



冬の森の明かりのように

MYスタイル

インテリアで個性を表現する人が増えてきた。照明も、かつてのように天井の蛍光灯で部屋全体を照らすのではなく、部屋の随所にスタンドランプを置いて、雰囲気演出するような使い方も出てきている。

そんなシーンにぴったりなのが、デザイナーの安積朋子さんが作った「リトルウッズ」という照明器具のシリーズだ。

「冬の林に降りそそぐ光と影」からアイデアを得たという。和紙のような質感をもたせた紙に、枝葉をかたどった図柄が施されている。電球をつけると図柄が浮かび上がり、温かみのあ

る光が、木漏れ日のように放たれる様が美しい。

この美しさを作り出しているのは、紙。熱を加えると溶けて半透明になるという特殊な加工で作られている。熱した型を押し当てる



川島蓉子

ことで、透けるような図柄をつけられるのだという。

縦23センチ×横25センチ×幅16センチと小型。机の上や棚に置くと、アクセントになる。軽いものなので場所を移動させるのも簡単だ。

紙と電球と部品がセットになっていて、自分で組み立てるというのもユニーク。だが、さほど難しくもない。紙を2枚合わせてたわませ、中央に電球を入れるシンプルな構造だ。マックスレイという照明メーカーから販売されている。

主張し過ぎないデザインなので、和室にも洋室にもなじむ。寒さが厳しくなる季節は、部屋にこんな照明を置いてみたい。冬の森にともる明かりのようで、ちょっととしたクリスマス気分も味わえそうだ。

(伊藤忠ファッションシステムマーケティングマネジャー)